明治大学国際交流基金事業 研究者交流支援制度 報告書

商学部教授　菊池一夫
研究者氏名：Ben Wooliscroft（ベン・ウーリースクロフト）教授（Auckland University of Technology (AUT)オークランド工科大学ビジネス・経済・法学部）

招聘期間：2025 年 5 月 11 日～5 月 20 日（10 日間）

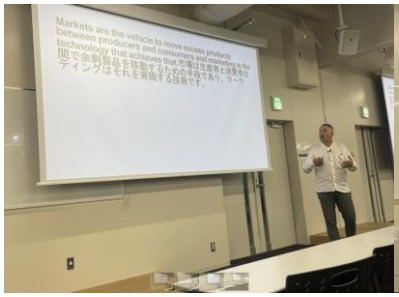
2025 年 5 月 11 日にベン・ウーリースクロフト教授がニュージーランドより来日した。同教授は、マクロマーケティング学会の会長であり、マーケティング学説史やブランド研究で著名な研究者である。

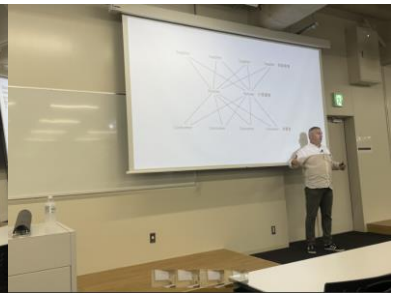
5 月 12 日の商業総論 A（竹村正明教授担当：明治大学和泉キャンパス）にてウーリースクロフト教授によるマーケティング研究の特別講義が開催された。なお菊池が特別研究の期間中であるため商学部の竹村教授に協力を賜った。

特別講義のテーマは、“Marketing: What it was, what it became and what it should be. The glue that holds society and the economy together.”である。本受講者は商学部の 1・2 年生を中心に、商学部の 4 年生や商学研究科の大学院生も参加した。本特別講義の受講者数は 300 名程度になった。竹村正明教授による逐次通訳によってウーリースクロフト教授の講義が進行していった（報告用のスライドの日本語訳と講義の写真撮影は菊池が担当）。

特別講義の内容はマーケティング史の視点からマーケティング現象を理解するものである。マーケティング現象が発生し拡大する。従来は 4 P に集約された領域がマーケターのマーケティング活動と捉えがちであるが、その集約から漏れてしまった領域（立地や顧客維持など）においてもさまざまなマーケティング活動があることが示された。

また同様に、マーケティング活動の拡大とともに、消費者の物質主義が増大することで大量消費社会が実現した。今後はこのような状況に対応して改善するためには、「生活の質」を高めるような消費者行動と、企業のサスティナブル・マーケティングの重要性が主張された。講義終了後に複数の学生から「企業と消費者とのよりよいリレーションシップの構築とは？」、「信頼を高める企業の行動とは？」といった質問がなされ、ウーリースクロフト教授との対話が活発になされた。





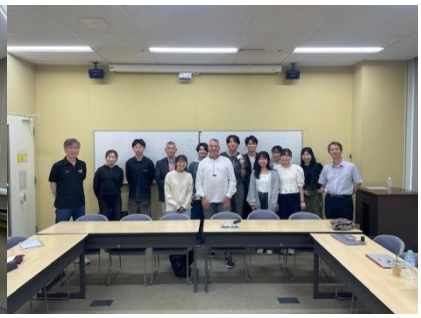
5 月 13 日午後には駿河台キャンパス 12 号館にて研究会が開催された。参加者はウーリースクロフト教授、竹村正明教授と菊池である。本研究会ではマクロマーケティング研究の動向等について説明や意見交換がなされた。

5 月 15 日午前に駿河台キャンパス研究棟にて研究会が開催された。参加者はウーリースクロフト教授、竹村正明教授と菊池である。サスティナブル・マーケティングのテーマを中心に菊池が報告を行った。同日午後には老舗の千疋屋総本店（日本橋）にインタビュー調査のために店舗と本社を訪問した。本調査には千疋屋総本店の大島代次郎社長をはじめ経営幹部の方々に丁寧にご対応をいただいた。

5 月 16 日は終日、駿河台キャンパスにてマーケティング理論に関する研究会が開催された。参加者はウーリースクロフト教授、竹村正明教授、斎藤典晃准教授（高千穂大学）、松尾洋治教授（広島修道大学）と菊池である。同日午前に斎藤・菊池他の共同研究の報告がなされた。午後に松尾・菊池他の共同研究の報告が行われ、各々の報告についてウーリースクロフト教授と参加者との議論が交わされた。

5 月 19 日 3 時限目にウーリースクロフト教授、竹村教授と菊池は共同研究の打ち合わせを行った。そして 4 時限目に駿河台キャンパスリバティタワーにて商学部の菊池ゼミ（4 年生）と商学研究科の竹村研究室の大学院生と合同でウーリースクロフト教授との交流会が

行われた。本学学生とウーリースクロフト教授との間で 11 日の特別講義の内容について質問やニュージーランドの様子、マーケティング研究などについての意見交換が英語を通じて行われた。



5 月 20 日にウーリースクロフト教授はニュージーランドに帰国した。